

光（アミターバ、Amitābha）」と「限りな寿（アミターヨス、Amitāyus）」という二つ意味があります。

このうち、「限りない光」とは、煩惱という厚い雲に覆われても、それによって遮られるところ、「どうでも照らすといはたらぬ」を表し、「限りない寿」とは、「いついかなるとしても、絶えぬことなくはたらいていの」ということを表します。そして、「仏（陀）」とう語には、「さとひを開いてる方（Buddha）」という意味があり、「すべてのものに、さりを開かせようとはたらいてる方」ということを表しています。

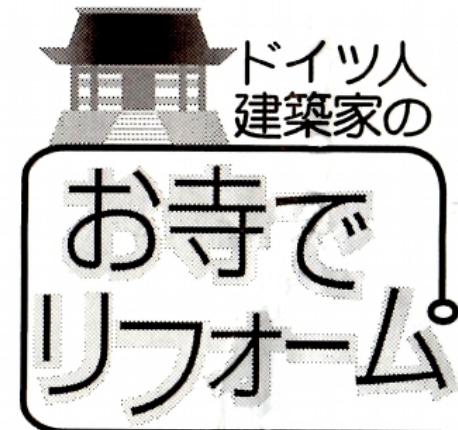
それでは、どうして阿弥陀仏、このような「はたらき」をになえていらっしゃるのでしょう。それは、私たちが、煩惱振り回されていることに気づく、多忙な生活に身を任せっきりで、外へ外へと向けて生きていからでしょう。まるで無邪気遊んでいる幼い子どもの後ろをそっと親が見守るように、阿弥陀仏は「いつでもおひざ」です。ですから、「つねひざから（おひざめする）」といふは、こうした阿弥陀仏のお姿思い起し、感謝の気持ちを新にすることなのです。



右から村石住職、アグネスさん＝  
横浜市・光輪寺

このうち、「限りない光」とは、煩惱という厚い雲に覆われても、それによって遮られるところ、「どうでも照らすといはたらぬ」を表し、「限りない寿」とは、「いついかなるとしても、絶えぬことなくはたらいていの」ということを表します。そして、「仏（陀）」とう語には、「さとひを開いてる方（Buddha）」という意味があり、「すべてのものに、さりを開かせようとはたらいてる方」ということを表しています。

夕食の時、彼女は念佛して阿弥陀仏におまかせし、み教えを広める努力を重ねる日々に、どれほど心が満たされているかを明るく話す。多忙な生活に身を任せっきりで、外へ外へと向けて生きていからでしょう。まるで無邪気遊んでいる幼い子どもの後ろをそっと親が見守るように、阿弥陀仏は「いつでもおひざ」です。ですから、「つねひざから（おひざめする）」といふは、こうした阿弥陀仏のお姿思い起し、感謝の気持ちを新にすることなのです。



⑥  
大阪・極楽寺衆徒  
ベッティーナ・ラングナー寺本

してみました。

ボーランド浄土真宗サンガの代表者であり、医学博士でもあるアグネスさんは22年前、不思議な縁で村石住職と結婚しました。そして得度して僧侶となり、坊守式も受式しました。彼女は住職を補佐し、大学教授で多忙な住職に代わって一人で法務を担当することもありました。

そんな彼女のお念佛に生きる生活について書いた数々の著書や、お寺での法要の際に行われる日英両語の法話に惹かれ、人々がお寺に集まるようになります。

法話の後、さまざまな国籍の聴衆から、いろいろな質問が投げかけられます。アグネスさんは、ご主人に質問を記してもらい、教学的見地から、あるいは念佛を中心据えた、ご自身の生活や実体験から、真摯にそうした質問に答えていました。

毎日、お寺の仕事に追われながら、常に勉強を怠らず、質問していく人には誰でも教えを伝えようとする彼女の姿を見るたびに感動を覚えます。そんな彼女を前にすると、どんなに困難な条件であっても、阿弥陀さまのお喚び声に従い努力していくことで乗り越えていく、と勇気がわいてきます。

## 尊敬する先輩